

めぐみイエス・キリスト教会

2023年8月13日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第669号」



2023年標題聖句

第Iヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌259「聖いふみは教える」	p. 404
【交読文】	No.33 詩篇第104篇	p. 906
【賛美Ⅱ】	新聖歌339「恵みの高き嶺」	p. 538
【使徒信条】	【主の祈り】	
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「主の十字架」	
【聖書朗読】	ルカの福音書1章18節～25節(新約p. 107上段右側)	
【礼拝説教】	《その時が来れば》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(ルカの福音書1章18節～25節)

1:18 ザカリヤは御使いに言った。「私はそのようなことを、何によって知ることができるのでしょうか。この私は年寄りですし、妻ももう年をとっています。」

1:19 御使いは彼に答えた。「この私は神の前に立つガブリエルです。あなたに話をしこの良い知らせを伝える為に遣わされたのです。」

1:20 見なさい。これらのことが起こる日まで、あなたは口がきけなくなり、話せなくなります。その時が来れば実現する私の言葉を、あなたが信じなかったからです。」

1:21 民はザカリヤを待っていたが、神殿で手間取っているのので、不思議に思っていた。

1:22 やがて彼は出て来たが、彼らに話をすることができなかった。それで、彼が神殿で幻を見たことが分かった。ザカリヤは彼らに合図を

するだけで、口がきけないままであった。

1:23 やがて務めの期間が終わり、彼は自分の家に帰った。

1:24 1:25 しばらくして、妻エリサベツは身ごもった。そして、「主は今このようにして私に目を留め、人々の間から私の恥を取り除いて下さいました」と言い、五か月の間、安静にしていた。

●ポイント1.「御使いがザカリヤに持ってきた良い知らせ」とは？

※ルカの福音書1章13節～17節「神殿の聖所において」(新約p.106)

1:13 御使いは彼に言った。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。

1:14 その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。

1:15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼は葡萄酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいる時から聖霊に満たされ、

1:16 イスラエルの子らの多くを彼らの神である主に立ち返らせます。

1:17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」

●ポイント2.「ザカリヤの答えから学ぶこと」とは？

※ヤコブの手紙1章6節～8節「主の弟ヤコブの勧めから」(新約p.458)

1:6 ただし、少しも疑わずに、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

1:7 その人は、主から何かをいただけるとってはなりません。

1:8 そういう人は二心を抱く者で、歩む道すべてにおいて心が定まっていないからです。

●ポイント3.「その時が来れば」とは？

※イザヤ書46章9節～10節「イザヤに与えられた言葉」(旧約p.1246)

◎先週の礼拝メッセージ【祭司ザカリヤへのお告げ】

《ルカの福音書に戻ります。ルカが、この記事を書いた頃には、すでに、ザカリヤと妻エリサベツは召されています。しかし、主の母マリアは、晩年をヨハネと共にエペソ教会において送ったと伝えられており、ルカの福音書が書かれたのが紀元60年から62年としますと、もし主の母マリアがまだ生きていたら約80歳になります。よって、ルカがマリア本人から、これらの話を聞いた可能性は十分考えられます。

さて、ヘロデ大王がまだ生きていた紀元前6年頃のことです。第八組・アビヤの組の者でザカリヤと言う名の年を取った祭司がいました。

この組分けは、ダビデがくじによって決めました。第一組から第二十四組まで順番に、年二回、組の当番が回って来るとされています。

さてザカリヤは、自分の組が当番で、神の前で祭司の務めをしていたとき、くじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになりました。これは、祭司ならば誰もが待ち望んでいることなのです。一組の祭司の数は四百人で、くじによって、たった一人が、その名誉ある役目を果たすことになります。ザカリヤにくじが当たったことは、神様の摂理の何ものでもありません。すると、主の御使いが彼に現れたのです。ザカリヤは恐怖に襲われました。なぜなら、サドカイ人であるザカリヤは、主の御使いの存在を信じていなかったからです。

「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。」

ここから、バプテスマのヨハネの命名者は、神様であることが分かります。ヨハネは、「エリヤの霊と力」で、メシア来臨の備えをする為に生まれるのです。旧約聖書の最後の預言書マラキ書には、エリヤがまず先に来ることが預言されています。そして、さらに、主イエスの再臨の直前に、エリヤ本人が、現在のエルサレムに現われるのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、8月20日(日)で、通常通り、午前10時からです。

